



薬の伝言板～喘息～

No.310 2023年 9月

丸子中央病院 薬局

◇ 喘息とは？

喘息の人の気道は、症状がない時でも常に炎症を起こしており、健康な人に比べて気道が狭くなって空気が通りにくくなっています。炎症がおこっている気道はとても敏感になっていて、正常な気道ならなんともないホコリやタバコ、ストレスなどわずかな刺激でも狭くなり、発作をおこします。

◇ 主な症状

喘息は、咳や痰、息苦しさや「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という喘鳴などさまざまな症状があります。



◇ 主な原因

喘息の発作の刺激となるものは、ダニやホコリ、カビ、ペットの毛などアレルギー反応をおこす「アレルギー」と、タバコの煙、ストレスなどのアレルギー以外のものがあります。



実際にはいくつかの誘因が絡み合って発作がおこります。発作の原因となっている誘因をできるだけ遠ざけることが発作の予防になります。

喘息症状がおこりやすいとき

喘息症状は夜間～早朝にかけておこりやすいことが大きな特徴です。

その他にも次のようなときにおこりやすいです。

- ・季節の変わり目など気温差が激しいとき
- ・疲れているとき
- ・天気がよくないとき、変わりやすいとき
- ・風邪をひいたとき など



◇ 喘息治療

喘息は気道の炎症がもととなっているため、吸入ステロイド薬が基本治療になっています。症状の程度や呼吸機能の結果にあった薬の種類や量を選びます。喘息治療は、「発作がおこらないようになり、健康な人と変わらない生活を送ること」が目標です。

喘息の治療薬は次の2種類に分けられます。

- ・**長期管理薬** : 症状がおこらないように毎日行う治療
- ・**発作治療薬** : 発作がおきたときに行う治療



○**長期管理薬** : 気道の炎症を抑える薬と、気道を広げる薬で発作を予防します

気道の炎症を抑える薬

吸入ステロイド薬 : フルチカゾン (吸入薬)

ロイコトリエン受容体拮抗薬 : プランルカスト (内服薬) モンテルカスト (内服薬)

気道を広げる薬

長時間作用性 β_2 刺激薬 : ツロブテロール (貼付剤)

テオフィリン徐放剤 : テオフィリン (内服薬)

長時間作用性抗コリン薬 : チオトロピウム (吸入薬)

毎日の気道の炎症治療をおこたっていると、気道がますます敏感になり、発作を繰り返すという悪循環におちいります。症状がないからと途中でやめてしまわず、医師の指示通りに続けることが重要です。

高用量の吸入ステロイド薬や複数の薬剤を併用しても症状が安定しない、重症の喘息患者さんを対象とした治療薬もあります。

○**発作治療薬** : 発作時に気管支を速やかに広げ、呼吸を楽にします

気道を広げる薬

短時間作用性吸入 β_2 刺激薬 : プロカテロール (吸入薬)

テオフィリン薬 : アミノフィリン (注射薬)

症状が改善しなかったり、苦しくて横になれないほど重度の発作の場合は救急外来を受診しましょう。

喘息治療薬は「吸入薬」が基本です。正しい吸入方法をマスターしておくことが重要です。

吸入薬の使い方は薬剤によって異なるため不明な点は薬剤師へお尋ね下さ

い。